

-Index- 創刊28年目「みみネット」
令和3年度 各種研修会のお知らせ
地域支援の申込みについて
チャレンジ！発音指導⑤
みみよりコラム



聴覚障がい教育情報誌

創刊28年目「みみネット」

大阪府立中央聴覚支援学校〈聴覚支援センター〉では、地域の学校園の先生方に向けて、聴覚障がい教育に関する情報紙「みみネット」を月1回発行しています。

大阪市立学校園にメール配信するとともに、大阪府立学校においては、全校トップページに「みみネット」の最新号についての案内を配信しています。ぜひ、ご活用ください！



令和3年度 各種研修会のお知らせ（予定）

令和3年度の本校主催の研修会についてお知らせします。今年度も地域の先生方のニーズにお応えできるよう、充実した研修内容を企画しています。

8月初旬「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会」
「養護教諭セミナー」

1月初旬「みみネットアカデミー」

8月の研修会については、日程が決まり次第「みみネット」および本校ホームページ等に、掲載します。

本校ホームページ <https://www2.osaka-c.ed.jp/osakachuo-c-s/>



聴覚障がい教育の豊かな経験と知識を持った専門教員が、
それぞれの課題に即した **相談・支援** に応じます！

地域支援の申込みについて

教員研修 本校教員が学校園に訪問し、教員研修や理解授業支援を行います

(例) 「きこえと補聴器」「きこえにくい子どもへの指導の実際」「擬似難聴体験」など

理解授業支援 共同して授業計画を立案し、効果的な指導に結びつくよう
相談・支援を行います

(例) 「聴覚障がいのある先生との交流」「きこえにくさの体験」「指文字・手話の体験」
など

支援や指導に関する相談 指導の方法、教材作成上の工夫、教室の音環境、
情報保障等に関する相談・助言に応じます

・子どもの実態に合わせて、早期教育相談・通級指導教室・支援学級相談を行っています
・詳細については、本校コーディネーターまで、お問い合わせください

補聴相談 聴力の測定やことばのききとり評価を行うとともに、補聴器や人工内耳の
効果的な活用などについての相談に応じます

各種研修会 年3回の研修会を、本校にて実施しています

<申込方法>

ご相談は随時受け付けています。本校に支援や相談を依頼される場合には、本校「特別支援教育コーディネーター」まで電話またはFAXにて、ご連絡ください。

なお、大阪市立の学校園からの依頼については、大阪市教育委員会指導部インクルーシブ教育推進担当のホームページに掲載されている「府立支援学校への地域支援相談申込みについて」をご参照ください。

(参考)

大阪市教育委員会指導部

<http://www.ocec.jp/shidoubu/index.cfm/9.html>

特別支援コーディネーター
TEL. 06-6761-1419
FAX. 06-6762-1800

チャレンジ！発音指導 ⑤

「発音」とは、構音器官（口、鼻、のど）を使って、音（=おおむね文字に対応した意味をもった音）を作り出すことです。この発音には4つのプロセス（①呼吸、②発声、③共鳴、④構音）があります。いずれのプロセスでつまずいても、うまく発音することができません。そのため、このプロセスを正しく理解してアプローチにつなげることが大切です。今回は、その4つのプロセスの一つ目「呼吸」について、みていきます。

発音のプロセス①「呼吸」

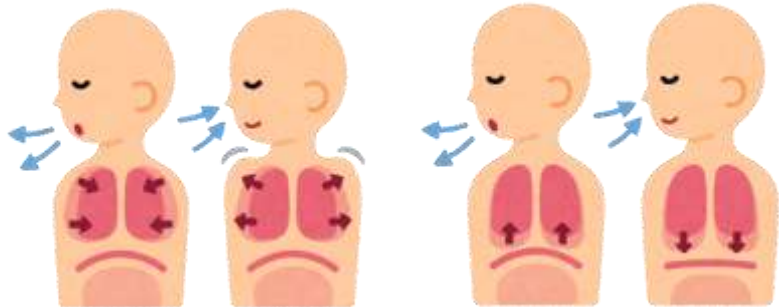
呼吸とは、ご存じのとおり、息を吸って（吸気）息を吐く（呼気）ことです。

呼吸を行うときに使う器官は肺ですが、肺そのものに動く仕組みはありません。肋骨の間の筋肉である外肋間筋（ろっかんきん）を使う方法と、横隔膜（おうかくまく）を使うことで、肺の周りにある胸郭とよばれる空間の圧をコントロールする方法で、肺に空気の出し入れをおこなっています。前者は一般的に胸式呼吸、後者は腹式呼吸と呼ばれます。

通常はどちらか一方ではなく、外肋間筋と横隔膜（膜という名前ですが筋肉です）、両方の働きによって呼吸運動が行われています。

胸式呼吸

腹式呼吸



呼吸が音の動力源となりますので、呼吸の強弱、長短などをコントロールできることが、発声・発音の基礎になります。十分な呼吸を出すことができれば、このあとに続く発声、構音へと続かなくなってしまいます。そのため、この土台となる呼吸訓練により、肺活量の増大を図り、外肋間筋と横隔膜による吸気呼気調整能力を引き上げることが大切です。

呼吸の強弱、長短などをコントロールが、発声・発音の基礎になる

<呼吸>

基礎：息の強弱、長短の出し分け練習

視覚的に、息を線で表し、強さは太さ、長さは線の長短で表して示す方法があります。また、見えない息を視覚的にフィードバックするために、手のひらや紙テープ、ティッシュ、シャボン玉、まき笛などを使用して、息の出し分けの練習にも取り組みます。うまくできるようになったら、長短、強弱を組み合わせて行います。



応用：文の音読での息継ぎ練習

語の途中での息継ぎや、不適切な位置での息継ぎをすることにより、文の意味が正しく伝わらないことがあります。そのため、3語文程度から短文でのブレスの位置を確認します。

みみより★コラム

新年度が始まり、聴覚障がいのある子どもたちを担当するのが初めてという先生方も、たくさんおられるかと思います。子どもたちが装着している補聴器・人工内耳は、きこえを補う大切な補装具です。子どもたちが補聴器・人工内耳を活用し、情報を補いながら、豊かな学校生活を送るためにも、本紙「みみネット」をとおして、その機能や管理方法などについて、知っていただければと思います。

チェックリスト「補聴器・人工内耳の管理について」

- <先生> 登校時、補聴器・人工内耳の装着を確認している
 - <子ども> 予備の電池を携帯している
 - 乾燥ケース（携帯ケース）を持参している
 - 汗や水がついたときは、補聴器や人工内耳の本体を拭いてから、電池室を開けている
- (※故障を防ぐため)



「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800